

平成29年度 ケイセンビジネス公務員カレッジ 学校自己評価

教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人づくりを通じて社会に貢献する</li> <li>2 学生の夢を実現させる</li> <li>3 社会に有用な人材を育成する</li> </ol>
教育方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学生の「夢」実現のため、本校の強みである「厳しく、優しく、ていねい」な指導により、学生の早期自立を図り、公務員合格率及び就職内定率の向上を図る</li> <li>2 ふるさと福島県の復旧・復興を担う若者の養成に努める</li> <li>3 教職員の指導力の向上に努力する</li> </ol>
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公務員合格率の向上</li> <li>2 就職内定率の向上</li> <li>3 検定試験合格率の向上</li> <li>4 本物のビジネスパーソン、本物の公務員を育てる。</li> <li>5 競技大会の優勝に向けた準備</li> <li>6 入試広報部と連携した入学者の確保</li> <li>7 創立50周年記念事業の実施</li> <li>8 郡山学院高等専修学校との連携</li> </ol>
重 点 目 標	内 容
1 公務員合格率の向上	<p>行政系学科と公務員試験対策部が一体となり試験対策を行う。入学当初に学生個々の学力を把握・検討し、クラス特性に応じた教育指導及び補習等サポートにより1次合格率の向上を図る。2次試験対策は、年度当初からのホームルームを活用し、公務員として働く意義等の意識付けを行うとともに、近年の2次試験傾向を分析し、複数回及び複数教員による重点的かつ計画的な面接指導を強化・徹底する。受験希望先の選定及び決定は、入学当初の親身な面接を重ね、きめ細かな情報提供、助言・サポートにより早期の意志決定を図る。その際、一人あたりの受験先数を増やす指導に留意する。</p>
2 就職内定率の向上	<p>就職部、キャリアサポート室、担任教員が連携し、学生個々の希望職種等の情報の共有を図るとともに、企業情報の提供、就職活動の指導、インターンシップ制度を活用した職場体験、受験結果の把握及び適時の指導・フォローにより、行政学科からの民間企業就職希望変更者を含め、早期（年内）の就職内定に努める。求人情報は、企業訪問を継続的に実施し、学生のニーズ・特性に合った企業の確保に留意する。</p>
3 検定試験合格率の向上	<p>授業当初において、検定種目の取得目的、必要性、重要性等を明確に示し、学習意欲の向上を図るため、学生の意識付けに留意する。また、担当教員は終始一貫性をもって本気度を示し、熱意をもって授業に取り組むとともに、学生の習得状況を適時に確認しつつ、補習等を含めたレベルアップを図り、検定試験合格率を向上させる。</p>
4 本物のビジネスパーソン、公務員を育てる	<p>社会人としていち早く職場に適応し、組織の一員として社会に貢献できる人材を育成するため、引き続き、教職員による登校時のあいさつ指導を積極的に実施する。当初からのホームルームを活用し、公務員として働く意義等の意識付けを行うとともに、芳賀池クリーン作戦等のボランティア活動を通じて、地域の一員としての連帯と責任及び地域・人の役に立つ喜び、充実感、達成感等を感じさせ、やりがいや働く意義を理解させる等、人材育成の一環として実施する。</p>
5 競技大会の優勝に向けた準備	<p>歴史ある専門学校として、特技保有者及び素養のある者を選抜したプロジェクトチームを編成し、この3年の間に簿記・電卓競技大会優勝を獲得すべく計画する。</p>

6 入試広報部と連携した入学者の確保	校訪問による出前授業、学校説明会、本校において公務員セミナー、体験授業及び保護者説明会を継続的に実施する。募集広報活動は、継続した地域等ボランティア活動、新規イベント等の企画・開催を行うとともに、各部が連携し、早期（年内）における就職内定率、公務員合格率、検定試験合格率等の魅力ある情報発信に努める。
7 創立50周年記念事業の実施	創立から半世紀を迎えるにあたり、創立50周年を祝い、今後の新たな発展の礎とすべく、記念式典・祝賀会を始め、創立50周年記念誌の刊行等、創立50周年記念事業を実施する。
8 郡山学院高等専修学校との連携	郡山学院高等専修学校から入学した学生の特性に応じたサポートを適切に行うため、郡山学院担当職員との情報交換を図る。

## 平成29年度 ケイセンビジネス公務員カレッジ 学校自己評価 改善策

学校自己評価の成果・反省を踏まえて、下記項目についての改善策を実施していく。

1 学校運営	自己評価を適正に行い、学校関係者評価を基に改善に取り組む。報告・連絡・相談の徹底により危機管理能力を高め、職員全員が情報を共有し、不測の事態に対しても迅速・適切・早期の対応を図る。運営組織は、校務分掌等に明確に定められ、機能的に整備されており、各学科、教務、事務等の各分掌は、常に業務計画に従ったそれぞれの業務を遂行し、かつ有機的に連携、機能している。運営に関わる業務の効率化に向け、見直すべき点があった場合には、修正を図る。事業計画作成にあたっては、社会情勢、学生や企業のニーズを踏まえて取り組むべき施策や解決すべき課題を明確にする。
2 指導・成果	本学の授業は、知識をより確実にするばかりでなく、積極性、協調性、表現力、コミュニケーション力など人間性の育成を図っている。教育活動について定期的な見直しを行うために、学生による授業評価アンケートを実施し、授業システム見直しのための資料として活用する。社会ニーズに対応するために、外部の企業講師による職業実践型授業を取り入れ、学生ニーズに柔軟に応えるため、科目の一部の習熟度別授業、放課後の補修といった資格試験取得のための特別体制を取って学生の能力や興味に合う授業を提供する。公務員試験対策として、1次試験の獲得点数を多くする努力及び2次試験に向けた指導を強化する。卒業生の動向については、同窓会等の活用により活躍等の把握に努める。就職活動に向けてのタイムチャートを作成し早期の意識向上を図る。今後とも専門教育のみならず日々の授業の中でキャリア教育を充実させ、社会人基礎力を育む活動を行い、主体的に就職活動ができる学生を育てる。
3 学生の支援	全学科にキャリア教育のための科目を設け、学生のキャリアアップを図り、学生に対し、クラス担任、就職指導担当など複数人で就職をサポートする体制をとっている。また、学生相談に対しても、クラス担任による相談や専任カウンセラーによる学生相談を実施している。本校では学生の学習活動、就職活動などあらゆる指導において保護者との連携が重要であると考えており、その学生に合った個別指導を実施する。
4 財務内容	専門学校への進学減少等が予想され収益環境も更に今後厳しくなる事が予測されるため、財政基盤を中長期的に安定させていく必要がある。固定費の削減・経費節約に努めるとともに、教育の質の低下をさせないように学校全体で意識を高め、より一層の取り組みをする。
5 社会貢献	関係各位への感謝の気持ちを伝えることをテーマに、地域に密着した更なる社会貢献活動の発案・実施を目指す。学生のボランティア活動を推奨・支援し、継続的に社会貢献の役割を果たすため、更なる地域との連携や社会貢献を具体的に進める。